

## 試験学習の取り組み方

### ～ 問題集の選び方(下) 最後の決め手は「○」の解説文 ～

「問題集の選び(上) 問題集の種類」と「問題集選び(中) 構成は大きく2つ!」で、どの問題集を購入するかは何となく固まったのかなあと感じます。あとは「どこ(出版社)の何(書籍名)を購入する」という部分を見極めていきましょう。

単純に、読みやすい解説文だから購入する、小難しい解説文なので購入しないといった感じで「書店等で実際に読んで気に入ったものを選ぶ」というのも OK だと思います。ただ、私の場合は、購入したい問題集が複数冊あった場合、「解説ページの特に答えが「○」の選択肢の解説文」で判断します。

それは何故か、「×」となる選択肢の解説は、著者が異なっても、「～を行うのは、市町村ではなく、都道府県である」という感じで、どうしても「×」なのか、どうすれば「○」の選択肢になるのかに重点を置いた文章になりやすく、書籍ごとに大きな差が生じにくいといえます。しかし、「○」の選択肢の解説文は、書籍ごとに異なるだけでなく、書籍内の問題ごとでも異なります。

ですから、「○」の選択肢の解説文を確認することで、自分に適しているかどうかを判断しやすくなります。「○」の選択肢の解説文をパターン化すると、大きく「解説文なし = A」「問題文とほぼ同じ内容を記載 = B」「問題文の関連情報だけを記載 = C」「問題文を記載し、関連情報も記載 = B + C」の4パターンに分けられます。

どれが良いのかというのは個人で異なると思いますが、この4パターンのうち、私なら「問題文とほぼ同じ内容を記載 = B」もしくは「問題文を記載し、関連情報も記載 = B + C」を選びます。問題ごとに異なるのであれば、この2パターンが多い問題集を選択します。少なくとも「解説文なし = A」だけの問題集は選びません。この判断は、「解説文の内容が良いか or 悪いか」というよりも「いかに効率的に学習できるか」という視点に基づいて行っています。

掲載されている問題を複数回解くと、嫌でも問題を見ただけで、「あっ！これは○だ」「この問題は2が正解だった」と内容を読まずに判断できるようになってしまいます。正当番号まで覚えてしまった問題を解くのは時間の無駄です。そこで、せっかく1冊の問題集をそこまで覚えたのなら、「解説文だけを読み、問題文を連想しながら復習する」という方法で学習して、より確実に理解を深めていくことが有効だといえます。この学習を行う際に、「○」の解説文を読んだだけでは問題文が分からない問題集だと、「読んでいる視線を大きく動かす」「別のページに移動する」という作業が必要となり、「○」の解説文を読んだだけで問題文が分かる問題集よりも、時間がかかってしまうというデメリットがある点は理解しておきましょう。

ご自身の判断で自分のスタイルに適した問題集を選択することが一番であることは間違いありませんが、問題集選びに悩んだ場合には、上記の判断で選んでみてください！

福祉試験対策工房&ぼぼ屋は、FacebookやInstagramも開設しています。

 @fukusitaisaku\_boboya

 fukusitaisaku\_boboya

★「いいね」「フォロー」大歓迎です！是非ご覧になってください★

